

平成27年度入学生対象

別記様式1

主専攻プログラム詳述書

開設学部（学科）名〔医学部(保健学科) 作業療法学専攻〕

プログラムの名称（和文）	作業療法学プログラム
（英文）	Program of Occupational Therapy
<p>1. 取得できる学位 学士（保健学） 132単位以上（教養的教育科目40単位以上，専門基礎科目26単位以上，専門科目66単位）</p>	
<p>2. 概要 保健学科作業療法学専攻が提供する教育プログラムは，学生が，将来，医学・医療・保健・福祉等の分野で作業療法士として貢献し，作業療法学の発展に寄与できるよう，卒業時に学習の成果（項目8）で挙げている基本的知識，基本的技能および基本的態度・習慣の全項目を習得することを目標とする。</p>	
<p>3. ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針・プログラムの到達目標） 作業療法学プログラムでは，専門職の作業療法士としての基礎知識，技能，態度を修得し，さらには科学的思考力と創造性を発揮しうる人材を養成する。そのため，本プログラムでは，以下の能力を身につけ，教育課程の定める基準となる単位数を修得した学生に「学士（作業療法学）」の称号を授与します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作業的存在としての人間を探求し，ひとが作業を通して健康で幸福な生活を行うための種々の理論や技術が獲得できる。 ・作業療法の実践に必要な基本的知識と技能を修得することに加え，作業遂行の問題を的確に捉え，その解決のために広範な知識を統合する能力を身につけることができる。 ・人々の権利や主体性の尊重し，臨床における倫理的，誠実的，共感的，献身的な態度ならびに他職種との協力や専門職発展への献身などに対応できる。 ・変化する社会的ニーズを的確に捉え，生涯にわたって自らの知識，技術，態度を評価し，自ら学び続けるしなやかで創造的な姿勢と習慣を身につけることができる。 	
<p>4. カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針） 作業療法学プログラムでは，プログラムが掲げる到達目標を学生に実現させるために，次の方針のもとに教育課程を編成し，実践する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年次には，教養教育科目を通して教養，基礎学力の醸成を行うと同時に，「作業療法学概論」「臨床学入門」，「リハビリテーション概論」などの専門基礎科目の一部も開講され，作業療法的発想のもとで問題の発見と解決に向けた探求の基本姿勢を育む。 ・2年次には，作業療法学の学問的背景や基礎となる授業が中心となり，主に「人体構造学」「生理機能学」「運動学」「リハビリテーション整形外科学」「リハビリテーション精神医学」「リハビリテーション神経内科学」など必修科目が開講され，これらの科目を通して専門分野の基礎知識と技能・態度を修得する。 ・3年次には，主に「身体障害作業療法学」「精神障害作業療法学」「発達障害作業療法学」「老年期障害作業療法学」「日常生活活動学」などの専門科目が開講されており，作業療法を展開するために必要となる，情報の収集・評価・報告および根拠に基づいた治療に関する基礎知識と技能・態度を修得する。さらに，夏期の短期実習が計画されており，学問分野と実務との関連についての理解を深め，より具体的な課題 	

への取り組み方について学ぶことができる。

- ・4年次には、長期実習が計画されている。3年次までの教育課程で学んだ知識、技能、態度と作業療法過程を、実習施設において指導者による指導を受けながら作業療法の実践を行い、実践に適合した知識、技能、態度の統合を目指す。こうした経験を重ねることで、保健・医療・福祉に関わる作業療法の専門職としての資質と自覚を高める。また、卒業研究を通して、専門的な問題を理解・整理し、調査や分析、実験などに基づき解決するための能力を身に付け、作業療法学の学問として意義と重要性についても学ぶ。

5. 開始時期・受入条件

1年次（入学時）から作業療法学プログラムは開始される。学生は、入学時に次に定める高校までの履修科目に習熟していることを想定している。不十分なものは、以下の基盤科目の履修を必須とする。

科目名：数学基礎概論，初修物理学，初修生物学

本プログラムは、編入学生にも開かれている。編入試験で選抜されると、3年次編入が用意されている。広島大学在学の全学の学生に対しては転学部または転学科の規程に基づき別途定める。

本プログラムの定員（受け入れ上限数）は35名である。

6. 取得可能な資格

作業療法士国家試験受験資格

7. 授業科目及び授業内容

授業科目については別紙1の履修表を、シラバスについては「Myもみじ」又は広島大学公式ウェブサイト「入学案内」を参照。

8. 学習の成果

各学期末に、学習の成果の評価項目ごとに、評価基準を示し、達成水準を明示する。

各評価項目に対応した科目の成績評価をS=4, A=3, B=2, C=1と数値に変換した上で、加重値を加味し算出した評価基準値に基づき、入学してからその学期までの学習の成果を「極めて優秀(Excellent)」、「優秀(Very Good)」、「良好(Good)」の3段階で示す。

成績評価	数値変換
S（秀：90点以上）	4
A（優：80～89点）	3
B（良：70～79点）	2
C（可：60～69点）	1

学習の成果	評価基準値
極めて優秀(Excellent)	3.00～4.00
優秀(Very Good)	2.00～2.99
良好(Good)	1.00～1.99

○知識・理解

1. 人体の構造と機能に関する知識・理解
2. 病因と病態に関する知識・理解
3. 保健・医療システムに関する知識・理解
4. 作業療法の学問的背景に関する知識・理解
5. 外国語によるコミュニケーション能力に関する知識・理解

○能力・技能

1. 人体の構造と機能に関する知識・理科の展開
2. 作業療法の学問的背景に関する知識・理解の展開
3. 作業療法と障害に関する知識・理解の展開
4. コミュニケーション能力に関する知識・理解の展開
5. 作業療法の展開に必要な情報の収集・記録ができる
6. 作業療法プログラムの立案・実践ができる

○総合的な力

1. 保健医療における倫理的判断に基づいた行動
2. 医療・保健・福祉・教育への探求心とそれに取り組む積極的態度
3. 医療チームの一員としてふさわしい協調的態度とコミュニケーション能力
4. 総合的かつ科学的な問題解決能力

9. 卒業論文（卒業研究）（位置づけ，配属方法，時期等）

○位置づけ（目的）

それまでに学習した作業療法の総ての知識を応用し，臨床（社会）への貢献について考える（作業療法の臨床的意義の吟味）。あわせて科学的根拠に基づいた問題解決能力を習得し，専門職の質の向上を図る態度と技能を養う（専門性の確立）。

○概要

①作業療法の臨床的意義の吟味

自ら設定したテーマについて文献検索活動を通して，作業療法及び臨床における意義を吟味する。

②科学的根拠に基づいた研究活動の体験・習得

自らの研究テーマに沿って，研究計画立案，研究実施，論文作成，口頭発表という一連の研究プロセスを体験し，研究活動に必要な基本的知識，態度，技能を習得する。

○配属時期と配属方法

3年次後期より仮配属し，4年次進級時に本配属となる。配属方法は学生からの研究登録票を基に，学生提出の研究テーマと教員の専門を考慮して決定される。

10. 責任体制

P D C A 責任体制（計画(plan)・実施(do)・評価(check)・改善(action)）

作業療法学専攻会議，保健学科会議とその構成員により実施されている。

教養教育科目履修基準表

医学部保健学科作業療法学専攻

区分	科目区分	要修得単位数	授業科目等	単位数	履修区分	履修年次(注1)											
						1年次		2年次		3年次		4年次					
						前	後	前	後	前	後	前	後				
教養コア科目	教養ゼミ	2	教養ゼミ	2	必修	○											
	平和科目	2		2	選択必修	○	○										
	パッケージ別科目	6	選択したパッケージから	各2	選択必修	○	○										
教養科目	外国語	英語(注2)	コミュニケーション基礎	2	コミュニケーション基礎 I	1	必修	○									
					コミュニケーション基礎 II	1			○								
			コミュニケーション I	2	コミュニケーション I A	1	必修	○									
					コミュニケーション I B	1			○								
			コミュニケーション II	2	コミュニケーション II A	1	必修		○								
					コミュニケーション II B	1				○							
			コミュニケーション III	2	コミュニケーション III A	1	選択必修			○	○						
					コミュニケーション III B	1					○	○					
					コミュニケーション III C	1					○	○					
						上記3科目のうちから2科目											
			共通科目	初修外国語 (ドイツ語, フランス語, スペイン語, ロシア語, 中国語, 韓国語, ブラジル語のうちから1言語選択)	(0)	ベーシック外国語 I	1	自由選択	○								
						ベーシック外国語 II	1			○							
			情報科目	情報科目	(0)	情報活用基礎	2	自由選択	○								
						情報活用演習	2			○							
領域科目(注3)	領域科目(注3)	6	人文科学領域から2単位	1又は2	選択必修	○	○										
			社会科学領域から2単位	1又は2			○	○									
			複合領域から2単位	1又は2			○	○									
		(0)	すべての領域から	1又は2	自由選択	○	○										
健康スポーツ科目	健康スポーツ科目	(0)		1又は2	自由選択	○	○										
基盤科目	基盤科目	6	医療従事者のための心理学	2	必修		○										
			統計学B	2			○										
			生物学実験法・同実験	2			○										
		2	細胞科学	2	選択必修	○											
		生態学	2			○											
		0	初修物理学	2	(注4)	○											
		0	初修生物学	2	(注4)	○											
		0	数学基礎概論	2	(注4)	○											

注1 : ○印は標準履修セメスターを表している。なお、当該セメスターで単位を修得できなかった場合はこれ以降に履修することも可能である。授業科目により実際に開講するセメスターが異なる場合があるので、毎年度発行する教養教育科目授業時間割等で確認すること。

注2 : 短期語学留学等による「英語圏フィールドリサーチ」又は自学自習による「マルチメディア英語演習」の履修により修得した単位を、卒業に必要な英語の単位(8単位)に代えることが可能である。また、外国語技能検定試験、語学研修による単位認定制度もある。詳細は、学生便覧に掲載の教養教育の英語に関する項を参照のこと。

注3 : 複合領域からは「脳と行動の科学」を履修することが望ましい。

注4 : 「初修物理学」、「初修生物学」、「数学基礎概論」の単位を修得すべき者は、保健学科において指定する。ただし、卒業要件単位には含まない。

注5 : 自由選択科目は、初修外国語、情報科目、領域科目及び健康スポーツ科目の中から合計8単位以上を修得すること。

作業療法学専攻プログラムにおける学習の成果
評価項目と評価基準との関係

学習の成果		評価基準		
評価項目		極めて優秀(Excellent)	優秀(Very Good)	良好(Good)
知識・理解	(1) 人体の構造と機能に関する知識・理解	各コースにおいて、該当する作業療法教育プログラムの到達目標に基づいた試験を行う。その試験において、他の項目と関連付けて応用的な説明と考察ができる。	各コースにおいて、該当する作業療法教育プログラムの到達目標に基づいた試験を行う。その試験において、他の項目と関連付けて説明と考察ができる。	各コースにおいて、該当する作業療法教育プログラムの到達目標に基づいた試験を行う。その試験において、他の項目と関連付けて説明ができる。
	(2) 病因と病態に関する知識・理解			
	(3) 保健・医療システムに関する知識・理解			
	(4) 作業療法の学問的背景に関する知識・理解			
	(5) 外国語によるコミュニケーション能力に関する知識・理解			
能力・技能	(1) 人体の構造と機能に関する知識・理解の展開	各コースで行われる講義において、該当する作業療法教育プログラムの到達目標に基づいた試験を行う。その試験において、他の項目と関連付けて応用的な説明と考察ができる。	各コースで行われる講義において、該当する作業療法教育プログラムの到達目標に基づいた試験を行う。その試験において、他の項目と関連付けて説明と考察ができる。	各コースで行われる講義において、該当する作業療法教育プログラムの到達目標に基づいた試験を行う。その試験において、他の項目と関連付けて説明ができる。
	(2) 作業療法の学問的背景に関する知識・理解の展開	各コースで行われる演習・実習において、 1. 演習・実習の目的を理解し、 ・得られる結果を理論的に考察でき、レポートを作成することができる。 ・予想された以外の結果についても、考察することができる。 ・予想された以外の結果から、新しい仮説を立てて、その説明をすることができる。	各コースで行われる演習・実習において、 1. 演習・実習の目的を理解し、 ・得られる結果を理論的に考察でき、レポートを作成することができる。 ・予想された以外の結果についても、考察することができる。	各コースで行われる演習・実習において、 1. 演習・実習の目的を理解し、 ・得られる結果を理論的に考察でき、レポートを作成することができる。
	(3) 作業療法と障害に関する知識・理解の展開	2. 実習に対する諮問において、90%以上の回答率で回答することができる。	2. 実習に対する諮問において、70%以上の回答率で回答することができる。	2. 実習に対する諮問において、60%以上の回答率で回答することができる。
	(4) コミュニケーション能力に関する知識・理解の展開			
	(5) 作業療法の展開に必要な情報の収集・記録	知識を生かし、一人で作業療法の展開に必要な情報収集と記録ができる。	知識をもとに、実習指導者の少ない援助で作業療法の展開に必要な情報の収集と記録ができる。	知識はあるが、作業療法の展開に必要な情報収集と記録に際し、実習指導者のかなりの援助があればできる。
	(6) 作業療法プログラムの立案・実践	知識を生かし、一人で作業療法プログラムの立案・実践ができる。	知識をもとに、実習指導者の少ない援助で作業療法プログラムの立案・実践ができる。	知識はあるが、作業療法プログラムの立案・実践に際し、実習指導者のかなりの援助があればできる。
総合的な力	(1) 保健医療における倫理的判断に基づいた行動	臨床実践の場において保健医療における倫理に基づいて適切に判断し行動することができる。	保健医療における倫理に基づいて適切に判断することができる。	保健医療における倫理的判断について理解できる。
	(2) 医療・保健・福祉・教育への探求心とそれに取り組む積極的な態度	医療・保健・福祉・教育の問題への探求心とそれに取り組む積極的な態度が日常的に見られる。	医療・保健・福祉・教育の問題への探求心とそれに取り組む場面が見られる。	医療・保健・福祉・教育の問題への探求心とそれに取り組む姿勢・意欲が見られる。
	(3) 医療チームの一員としてふさわしい協調的な態度とコミュニケーション能力	医療チームの一員として、他の医療スタッフとの協調的な関係を構築し、積極的にコミュニケーションを取ることができる。また、チームのルールやマナーを守った行動をとることができる。	医療チームの一員として、他の医療スタッフとの協調的な関係を構築できる。また、チームのルールやマナーを守った行動をとることができる。	医療チームの一員として、他の医療スタッフとの協調的な態度で接することができる。
	(4) 総合的かつ科学的な問題解決能力	1. 課題に関するこれまでの研究成果を調査し、評価できる。 2. 課題達成のために解決すべき問題点を抽出できる。 3. 課題解決のための計画を立案することができる。 4. 立案した計画を遂行することができる。 5. 得られた結果をまとめ、理論的に考察することができる。 6. 得られた結果をまとめてプレゼンテーションできる。 7. 得られた結果から新たな仮説を立てることができる。	1. 課題に関するこれまでの研究成果を調査し、評価できる。 2. 課題達成のために解決すべき問題点を抽出できる。 3. 課題解決のための計画を立案することができる。 4. 立案した計画を遂行することができる。 5. 得られた結果をまとめ、理論的に考察することができる。 6. 得られた結果をまとめてプレゼンテーションできる。	1. 課題に関するこれまでの研究成果を調査し、評価できる。 2. 課題達成のために解決すべき問題点を抽出できる。 3. 課題解決のための計画を立案することができる。 4. 立案した計画を遂行することができる。 5. 得られた結果をまとめ、理論的に考察することができる。

主専攻プログラムにおける教養教育の位置づけ

本プログラムは、保健・医療・福祉の分野において作業療法士として活躍するための専門的知識や技術はもとより、豊かな人間性や幅広い教養を身につけ、生涯にわたって自ら学び続けるしなやかで創造的な人材を育成するため、1年次は西条キャンパスで他学部の学生と共に教養教育科目を学ぶ。

科目区分	授業科目名	単位数	必修・選択	開設期	評価項目																				科目中の評価項目の数						
					知識・理解					能力・技能						総合的な力															
					(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(1)	(2)	(3)	(4)												
専門教育科目	発達障害作業療法学	1	必修	4セメ											100	1											100				
専門教育科目	発達障害作業療法学演習I	1	必修	5セメ											40	1			30	1	30	1							100		
専門教育科目	発達障害作業療法学演習II	1	必修	6セメ											40	1			30	1	30	1							100		
専門教育科目	作業療法学研究法	2	必修	6セメ																			50	1			50	1	100		
専門教育科目	卒業研究	4	必修	8セメ																			20	1	20	1			60	1	100
専門教育科目	基礎臨床実習I	2	必修	4セメ				20	1														20	1	20	1	20	1	20	1	100
専門教育科目	基礎臨床実習II	2	必修	6セメ											20	1			20	1			15	1	15	1	15	1	15	1	100
専門教育科目	基礎臨床実習III	2	必修	6セメ											20	1			20	1			15	1	15	1	15	1	15	1	100
専門教育科目	総合臨床実習I	9	必修	7セメ															20	1	20	1	15	1	15	1	15	1	15	1	100
専門教育科目	総合臨床実習II	9	必修	7セメ															20	1	20	1	15	1	15	1	15	1	15	1	100

作業療法学専攻プログラムカリキュラムマップ

学習の成果 評価項目	1年		2年		3年		4年		
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
知識・理解	人体の構造と機能に関する知識・理解	細胞科学(○)	医療従事者のための心理学(△)	人体構造学II(◎)	運動学II(◎)				生理学的心理学(△)
		初修物理学(△)	生態学(○)	人体構造学特論(◎)					
	初修生物学(△)	人体構造学I(◎)	生理機能学II(◎)						
	人間発達学(◎)	生理機能学I(◎)	生理構造学特論(◎)						
	細胞科学(○)	医療従事者のための心理学(△)	病理学(◎)	リハビリテーション内科学II(△)	内部障害リハビリテーション学(△)				
	リハビリテーション内科学I(◎)	生態学(○)	リハビリテーション整形外科学各論(◎)	リハビリテーション整形外科学各論(◎)	リハビリテーション精神医学各論(◎)				
病因と病態に関する知識・理解			リハビリテーション整形外科学総論(◎)	リハビリテーション神経内科学II(◎)	精神障害学特論(◎)				
			リハビリテーション神経内科学I(◎)	リハビリテーション精神医学総論(◎)					
保健・医療システムに関する知識・理解			発達障害リハビリテーション学(◎)	老年期障害学(△)			救急法及び感染予防(△)		
				社会福祉学(◎)			保健政策論(△)		
作業療法の学問的背景に関する知識・理解	初修物理学(△)	リハビリテーション概論(◎)	作業応用学総論(◎)						
	初修生物学(△)	臨床学入門(◎)							
外国語によるコミュニケーション能力に関する知識・理解	コミュニケーション基礎I(◎)	コミュニケーション基礎II(◎)	コミュニケーションIII A(○)	コミュニケーションIII A(○)					
	コミュニケーションIA(◎)	コミュニケーションIIA(◎)	コミュニケーションIII B(○)	コミュニケーションIII B(○)					
	コミュニケーションIB(◎)	コミュニケーションIIB(◎)	コミュニケーションIII C(○)	コミュニケーションIII C(○)					
	ベーシック外国語I(△)	ベーシック外国語II(△)	保健英語(△)						
人体の構造と機能に関する知識・理解の展開			人体構造学実習I(◎)	運動学実習(◎)					
			人体構造学実習II(◎)						
作業療法の学問的背景に関する知識・理解の展開		生物学実験法・同実験(◎)	作業技術学演習(◎)	作業技術学実習(◎)	応用統計学(△)	地域生活学(◎)			
			作業応用学総論(◎)						
作業療法と障害に関する知識・理解の展開				高次脳機能障害作業療法学(◎)	日常生活活動学演習(◎)	日常生活活動学実習(◎)			
				発達障害作業療法学(◎)	身体障害作業療法学演習I(評価法演習)(◎)	余暇関連活動学演習(◎)			
					身体障害作業療法学実習I(評価法実習)(◎)	仕事関連活動学演習(◎)			
					高次脳機能障害作業療法学演習(◎)	地域生活学(◎)			
					高次脳機能障害作業療法学演習(◎)	老年期障害作業療法学演習(◎)			
					精神障害作業療法学(◎)	発達障害作業療法学演習II(◎)			
コミュニケーション能力に関する知識・理解の展開	コミュニケーション基礎I(◎)	コミュニケーション基礎II(◎)	コミュニケーションIII A(○)	コミュニケーションIII A(○)					
	コミュニケーションIA(◎)	コミュニケーションIIA(◎)	コミュニケーションIII B(○)	コミュニケーションIII B(○)					
	コミュニケーションIB(◎)	コミュニケーションIIB(◎)	コミュニケーションIII C(○)	コミュニケーションIII C(○)					
	ベーシック外国語I(△)	ベーシック外国語II(△)	評価とコミュニケーション(◎)						
作業療法の展開に必要な情報の収集・記録			作業応用学総論(◎)		日常生活活動学演習(◎)	日常生活活動学実習(◎)	総合臨床実習I(◎)		
					身体障害作業療法学演習I(評価法演習)(◎)	余暇関連活動学演習(◎)	総合臨床実習II(◎)		
					身体障害作業療法学実習I(評価法実習)(◎)	仕事関連活動学演習(◎)			
					高次脳機能障害作業療法学演習(◎)	身体障害作業療法学演習II(治療法演習)(◎)			
					精神障害作業療法学演習I(◎)	身体障害作業療法学実習II(治療法実習)(◎)			
					発達障害作業療法学演習I(◎)	老年期障害作業療法学演習(◎)			
作業療法プログラムの立案・実践					精神障害作業療法学演習II(◎)	精神障害作業療法学演習II(◎)			
					発達障害作業療法学演習II(◎)	発達障害作業療法学演習II(◎)			
					基礎臨床実習II(◎)	基礎臨床実習III(◎)			
					基礎臨床実習III(◎)				
					身体障害作業療法学実習I(評価法実習)(◎)	日常生活活動学実習(◎)	総合臨床実習I(◎)		
					身体障害作業療法学実習III(上肢機能介入法実習)(◎)	余暇関連活動学演習(◎)	総合臨床実習II(◎)		
保健医療における倫理的判断に基づいた行動	教養ゼミ(◎)			基礎臨床実習I(◎)		基礎臨床実習II(◎)	総合臨床実習I(◎)		
	平和科目(○)	平和科目(○)				基礎臨床実習III(◎)	総合臨床実習II(◎)		
	パッケージ別科目(○)	パッケージ別科目(○)					職業倫理・職場管理学(◎)		
	教養ゼミ(◎)			基礎臨床実習I(◎)					
	パッケージ別科目(○)	パッケージ別科目(○)							
	パッケージ別科目(○)	パッケージ別科目(○)							
医療・保健・福祉・教育への探求心とそれに取り組む積極的態	教養ゼミ(◎)			基礎臨床実習I(◎)		作業療法学研究法(◎)	総合臨床実習I(◎)		
	パッケージ別科目(○)	パッケージ別科目(○)				基礎臨床実習II(◎)	総合臨床実習II(◎)		
	パッケージ別科目(○)	パッケージ別科目(○)				基礎臨床実習III(◎)			
	パッケージ別科目(○)	パッケージ別科目(○)				基礎臨床実習II(◎)	総合臨床実習I(◎)		
	パッケージ別科目(○)	パッケージ別科目(○)				基礎臨床実習III(◎)	総合臨床実習II(◎)		
	パッケージ別科目(○)	パッケージ別科目(○)							
医療チームの一員としてふさわしい協調的態とコミュニケーション能力	教養ゼミ(◎)			基礎臨床実習I(◎)		作業療法学研究法(◎)	総合臨床実習I(◎)		
	平和科目(○)	平和科目(○)				基礎臨床実習II(◎)	総合臨床実習II(◎)		
	パッケージ別科目(○)	パッケージ別科目(○)				基礎臨床実習III(◎)			
	パッケージ別科目(○)	パッケージ別科目(○)				基礎臨床実習II(◎)	総合臨床実習I(◎)		
	パッケージ別科目(○)	パッケージ別科目(○)				基礎臨床実習III(◎)	総合臨床実習II(◎)		
	パッケージ別科目(○)	パッケージ別科目(○)							
総合的かつ科学的な問題解決能力	教養ゼミ(◎)			基礎臨床実習I(◎)		作業療法学研究法(◎)	総合臨床実習I(◎)		
	平和科目(○)	平和科目(○)				基礎臨床実習II(◎)	総合臨床実習II(◎)		
	パッケージ別科目(○)	パッケージ別科目(○)				基礎臨床実習III(◎)			
	情報活用基礎(△)	情報活用演習(△)							
	領域科目(○)	領域科目(○)							
	健康スポーツ科目(△)	健康スポーツ科目(△)							
数学基礎概論(△)	統計学B(◎)								
	生物学実験法・同実験(◎)								

(例) 教養科目 専門基礎 専門科目 卒業論文 (◎)必修科目 (○)選択必修科目 (△)選択科目

作業療法学専攻プログラム担当教員リスト

教員名	職名	内線番号	研究室	メールアドレス
松川 寛二	教授	5 4 3 5	生理機能情報科学	matsuk@hiroshima-u.ac.jp
岡村 仁	教授	5 4 5 0	精神機能制御科学	hokamura@hiroshima-u.ac.jp
砂川 融	教授	5 4 5 5	上肢機能解析制御科学	torusuna@hiroshima-u.ac.jp
宮口 英樹	教授	5 4 4 0	作業行動探索科学	hmiya@hiroshima-u.ac.jp
花岡 秀明	教授	5 4 0 0	老年・地域作業機能制御科学	hhanaoka@hiroshima-u.ac.jp
石附 智奈美	講師	5 4 0 1	作業行動探索科学	ishizuki@hiroshima-u.ac.jp
金子 史子	講師	5 4 5 1	精神機能制御科学	kfumi@hiroshima-u.ac.jp
車谷 洋	講師	5 4 4 1	上肢機能解析制御科学	hkuruma@hiroshima-u.ac.jp
山根 伸吾	助教	5 4 1 7	老年・地域作業機能制御科学	shingoyamane@hiroshima-u.ac.jp
梁 楠	助教	5 4 1 2	生理機能情報科学	liangnan@hiroshima-u.ac.jp
遠藤 加菜	助教	5 4 5 2	生理機能情報科学	kanaendo@hiroshima-u.ac.jp
三木 恵美	助教	5 4 5 2	身体・生活機能制御科学	mikiemi@hiroshima-u.ac.jp

※「082-424-（内線番号4桁）」とすれば、直通電話となります。

（霞：082-257-（内線番号4桁））

（東千田：082-542-（内線番号4桁））